

令和3年度 9月補正予算案等概要

I 総括

1 歳入歳出予算補正

(1) 補正規模

(単位:千円)

	当初予算	現在予算	今回補正	補正後予算
一般会計	1,054,544,000	1,061,620,567	9,821,324	1,071,441,891
特別会計	771,170,475	771,170,475	4,028,000	775,198,475
企業会計	330,711,692	330,711,692	0	330,711,692
合 計	2,156,426,167	2,163,502,734	13,849,324	2,177,352,058

【参考】

今回補正における一般会計の主な財源内訳

○一般財源	・繰 越 金	498,244
○特定財源	・国庫支出金	5,183,285
	・県支出金	166,000
	・市 債	3,973,000

(2) 補正の概要

(単位:千円)

① 新型コロナウイルス感染症対策	<u>1,118,000</u>
② 公共事業(国の内示等に伴う変更)	<u>8,691,923</u>
③ その他	<u>66,401</u>
④ 市債管理特別会計	<u>3,973,000</u>
※他会計の補正に伴う市債収入金繰出金	

2 債務負担行為補正〔1件〕

(単位:千円)

追加補正額	<u>17,344</u>
-------	----------------------

Ⅱ 内容

1 歳入歳出予算補正

① 新型コロナウイルス感染症対策

1,118,000 千円

(単位:千円)

項 目	補正額	所 管
感染症対応シティ促進事業 市民に商品販売やサービス提供を行う来店型の施設等を対象に、感染症対策強化の取組みのための工事費や物品・サービス導入費を支援	1,118,000	経済観光文化局

② 公共事業(国の内示等に伴う変更)

8,691,923 千円

(単位:千円)

項 目	補正額	所 管
街路整備事業 都市計画道路整備事業(老司片江線、野間屋形原線等)の増額等	4,477,610	道路下水道局
道路整備事業 交通安全施設等整備事業(福岡早良大野城線等)、橋梁のアセットマネジメントの増額等	771,622	道路下水道局
河川整備事業 都市基盤河川改修事業(金屑川等)の増額等	492,000	道路下水道局
公園整備事業 公園再整備事業(舞鶴公園等)の増額等	2,938,691	住宅都市局
漁港施設整備事業 漁港施設整備事業(博多漁港、奈多漁港)の増額	12,000	農林水産局

③ その他

66,401 千円

(単位:千円)

項 目	補正額	所 管
公立夜間中学整備事業 様々な理由により義務教育を修了できなかった人や、不登校などの事情により義務教育が十分に受けられなかった人などを対象とする夜間中学の設置に向けた施設改修等	33,532	教育委員会
土地開発基金積立金 土地開発公社の残余財産の確定に伴う基金積立金の増額	795	財政局
保険料の還付【国保特会】 過年度の国民健康保険料の還付	55,000	保健福祉局
南部療育環境整備事業 基本設計業務の工期変更に伴う事業費の減額	▲ 22,926	こども未来局

④ 市債管理特別会計

3,973,000 千円

(単位:千円)

項 目	補正額	所 管
一般会計への市債収入金繰出金	3,973,000	財政局

2 債務負担行為補正〔1件〕

17,344 千円

(単位:千円)

項 目	補正額	所 管
南部療育環境整備事業	17,344	こども未来局

令和2年度決算概要

<一般会計・特別会計>

(単位:千円)

区 分	一 般 会 計	特 別 会 計
最終予算額	1,343,074,737	790,622,529
歳入決算額(A)	1,257,959,311	745,452,459
歳出決算額(B)	1,241,593,295	739,249,107
形式収支額(C=A-B)	16,366,016	6,203,352
翌年度繰越財源(D)	7,734,138	86,022
実質収支額(E=C-D)	8,631,878	6,117,330
摘 要	【歳入過不足額】 △ 33,861,757 【歳出不用額】 42,493,635	主な実質収支 国民健康保険事業 3,654,697 介護保険事業 1,505,356 母子父子寡婦福祉資金貸付事業 874,203 後期高齢者医療 79,638

<企業会計>

(単位:千円)

区 分		収益的収支	資本的収支
下水道事業	収入	56,405,689	31,625,572
	支出	48,148,291	58,013,704
	差引	8,257,398	△26,388,132
モーターボート競走事業	収入	62,531,721	-
	支出	58,256,282	3,977,126
	差引	4,275,439	△3,977,126
水道事業	収入	38,238,022	10,732,731
	支出	32,036,799	23,561,578
	差引	6,201,223	△12,828,847
工業用水道事業	収入	280,560	600,364
	支出	173,056	676,208
	差引	107,504	△75,844
高速鉄道事業	収入	27,973,796	24,067,805
	支出	30,836,449	39,266,702
	差引	△2,862,653	△15,198,897
企業会計 計	収入	185,429,788	67,026,472
	支出	169,450,877	125,495,318
	差引	15,978,911	△58,468,846

令和2年度企業会計利益の処分

(単位:千円)

区 分	当年度未処分利益剰余金	利益剰余金処分額				翌年度繰越利益剰余金
		(資本金)	(減債積立金)	(建設改良積立金)	(一般会計繰出金)	
下水道事業	14,379,876	7,459,026	6,920,850	-	-	-
モーターボート競走事業	12,301,375	3,118,838	-	-	2,000,000	7,182,537
水道事業	9,475,699	6,638,665	2,837,034	-	-	-
工業用水道事業	516,014	-	-	-	-	516,014
高速鉄道事業	-	-	-	-	-	-
企業会計 計	36,672,964	17,216,529	9,757,884	-	2,000,000	7,698,551

令和2年度決算に基づく健全化判断比率等について

「健全化判断比率」は、いずれも早期健全化基準を下回る水準

- 「実質公債費比率」は、9.7%で早期健全化基準を15.3ポイント下回る
- 「将来負担比率」は、107.1%で早期健全化基準を292.9ポイント下回る
- 「資金不足比率」は、各公営企業いずれも黒字

健全化判断比率の各指標	令和2年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	摘 要
実質赤字比率【フロー指標】 一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率 $\frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$	—	11.25%	20%	○実質収支額 <u>一般会計 86億円の黒字</u>
連結実質赤字比率【フロー指標】 全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率 $\frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$	—	16.25%	30%	○実質収支額 <u>全会計 542億円の黒字</u> ・主なもの 一般会計 86億円 モーターボート競走 123億円 下水道 159億円 水道 116億円
実質公債費比率【フロー指標】 一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3か年平均） $\frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{算入公債費等})}{\text{標準財政規模} - \text{算入公債費等}}$	9.7%	25%	35%	前年度から0.5ポイント低下 参考：令和元年度決算 10.2%
将来負担比率【ストック指標】 一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率 $\frac{\text{将来負担額} - \text{充当可能財源等}}{\text{標準財政規模} - \text{算入公債費等}}$	107.1%	400%		前年度から5.2ポイント低下 ○将来負担額の内容 市債 14,004億円 債務負担 291億円 公営企業 2,569億円 一部事務組合等 32億円 退職手当 907億円 三セク等 193億円 参考：令和元年度決算 112.3%

資金不足比率		令和2年度決算	経営健全化 基 準	財政再生 基 準	摘 要
資金不足比率 【フロー指標】 公営企業ごとの 資金の不足額の事 業規模に対する比 率	モーターボート競走	—	20%		
	下水道	—			
	水道	—			
	工業用水道	—			
	高速鉄道	—			
	集落排水	—			
	中央市場	—			
	港湾整備	—			
	市営渡船	—			

- ※ 実質赤字比率、連結実質赤字比率及び資金不足比率については、黒字の場合「—」で表示します。
- ※ 令和2年度の標準財政規模は、4,275億円です。
- ※ 標準財政規模とは、税収や普通交付税など各自治体に共通した標準的な収入のことで、自治体が通常水準の行政サービスを提供するうえで必要な一般財源の目安となる数値です。